

令和4年度 日野市立潤徳小学校経営重点計画				自己評価シート				令和5年3月公表			
★学校教育目標				敬愛・自由・勤労 ◎考える子 ○はたらく子 ○心ゆたかな子 ○健康な子				★重点計画の概要			
★目指す学校像（ビジョン）				目指す学校像「笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～」を具現化することで、本校の教育活動で笑顔になった児童が、そのことを保護者に伝え、さらに地域に広がっていくという「笑顔のサイクル」をつくり、本校に関わる全ての方が幸せを感じることができるようにする。また、「第3次日野市学校教育基本構想」に示された「すべての「いのち」がよろこびあふれる未来をつくっていく力」を児童に身に付けさせ、この地域を愛し、将来、社会の形成者として地域を支える人材の育成を目指す。							
【めざす児童・生徒像】				笑顔いっぱい、元気いっぱい、やる気いっぱい、潤徳の子							
【めざす学校像】				笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～							
【めざす教師像】				「できない」ではなく「できるためにはどうするか」と考える教師 地域にある学校として、地域を愛する教師 自らの職責と使命の重さを自覚した「プロ意識」の高い教師							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
かかわり	「笑顔招福～SMILEFUL 潤徳小～」の理念の浸透と具現化	○「本校の児童を笑顔にするにはどうするか」との視点で教育活動のねらいを立て、実践する。 ○保護者・地域の方に本校の教育活動に関する積極的な広報を行い、目指す学校像に対する理解と協力を得る。	・学校行事等の計画案に、児童を笑顔にするための具体的な方策を盛り込み、前例踏襲にならない改善の方向性を示す。 ・学校行事、全校朝会、集会活動等で、「笑顔招福」につながる活動の企画と振り返りを行い、児童への啓発を図る。 ・学校・学年だよりの記載、保護者会、学校説明会、学校運営評議員会等で「笑顔招福」の説明を行い、保護者、地域への啓発を図る。 ・児童が笑顔で活動する様子を学校ホームページで積極的に発信する。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・学校キャッチフレーズ「笑顔招福」の理念が明確で分かりやすい。 ・学校のホームページが充実していて、校内の状況が保護者や地域の皆様に理解が図れている。 ・教職員が子供に笑顔で接したり挨拶をしたりしていただきたい。 ・心の安定と充実には「褒めてもらうこと」に尽きる。	・様々な機会を捉えて周知を図っている学校キャッチフレーズの「笑顔招福」が少しずつ浸透していることが伺える。 ・学校の状況をホームページでお伝えしていることが、保護者や地域の理解につながっていることが分かる。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	保護者アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
学び	ICT機器や学習者用端末の効果的な活用による、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びの実現	○学習者用端末の活用を通じた、情報活用能力の育成を図る。 ○学習支援ソフトの活用等により、基礎・基本を徹底し、確かな学力の定着を図る。	・「分からないこと、できないことを絶対にそのままにしない」粘り強い教育を展開する。 ・課題や目的に応じて、学校図書館、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析できる力を育成する。 ・学習支援ソフトのデジタルドリルの活用による基礎学力の確実な定着と、児童の学習履歴のデータを把握することによる個に応じた指導の充実を図る。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・インターネットの情報には注意が必要である。情報モラル教育の充実が不可欠。 ・鉛筆とノートを活用して書くよきもある。両方のよきを生かして学習をすすめていただきたい。 ・学習者用端末の書き取り等にはタッチペンなどの活用が有効ではないか。 ・分からない事をそのままにせず、中学に進学して欲しい。	・学習者用端末の活用が本格化してきた半面、利用によるリスクを心配されている様子が見える。子供たちの発達段階に応じた情報モラル教育をより充実させる必要がある。 ・子供たちの理解度に合わせて、習熟を図る時間を設定する必要がある。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
		○一斉学習、個別学習、協働学習の学習場面にに応じて、ICT機器を効果的に活用する。 ○校内研究等を通じて、教員のICT活用指導力等の向上を図る。	・写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作や発表を通して、プレゼンテーション能力を育成する。 ・学習支援ソフトの活用により、端末上で互いの意見を交流し、対話を通して自らの考えを深める協働的な学びを推進する。 ・校内研究のテーマを「主体的に考えを表現し、学び合う児童の育成～Chromebookの効果的な活用法の研究～」とし、年4回の研究授業、全教員による公開授業等を通して、指導力の向上を図る。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・教職員の日々の努力に感謝している。今後も研修を継続して実施していただきたい。 ・他の子の意見や考えを知ることは必要である。ICT機器の活用もよいが、実際に声を出し合うことも重要である。 ・デジタル機器はツールである。内容やプロセスに目を向けて欲しい。	・学習者用端末の活用状況について肯定的に受け止められていることが伺える。今後も、校内研究や研修計画に「学習者用端末の効果的な活用方法」を位置付け実施する必要がある。 ・学習者用端末の活用と従来の指導方法のよきを生かした授業を展開することが重要である。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
地域	地域を巻き込んだ持続可能な社会づくりの取組の推進	○教科横断的な活動を通したSDGsの取組を推進する。 ○地域関係者、PTAと連携した体験活動を推進する。	・「SDGsカレンダー」に基づいた計画的かつ教科横断的な取組を推進し、児童が17のゴールを意識して活動できるようにする。 ・地域関係者や行政と協力した環境保全や栽培活動の取組を推進する。また、浅川、近隣の公園、校舎裏のトンボ池、PTAによる飼育生物等の観察等を通して自然環境について考える機会とする。 ・地域を学習材とすることで、地域を愛し、将来にわたって地域を支える人材の育成を図る。	2	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・日野市の豊かな自然や地域の施設に触れることのできる教育活動を推進いただき感謝している。この地域のよきを生かした教育を継続して推進していただきたい。 ・子供たちには、地域とのつながりを通して、地域を愛し、支える人材に育って欲しいと願っている。 ・コロナ禍での学校と地域との連携について改めて考える必要がある。	・本校の恵まれた自然環境や文化施設、地域人材等、地域を学びのステージにした取組の充実を継続して行う。これらの取組を通して、地域に対する親しみや愛着を深めるとともに、自ら課題を見つけ、主体的・協働的に解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成していく。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
いのち	自他を敬愛し尊重する児童の育成	○「潤徳小さいじめ防止基本方針」に基づく、いじめの解消率100%を目指した取組の充実を図る。 ○よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため道徳教育の充実を図る。	・年3回の「学校生活アンケート」の実施、学校いじめ対策委員会、スクールカウンセラーによる児童面接等により、児童一人一人の状況を把握し、いじめの芽につながる行為が確認された場合は、100%の解消を目標に、迅速に対応する。 ・道徳授業地区公開講座等を活用し、家庭や地域との連携を図るとともに、日常的に「考え、議論する道徳」の授業を行うことで、児童の「道徳的実践力」を育成する。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・本校の児童は、とても素直で優しいという話をよく聞く。今後も継続して、「いのち」や「友達を大切にすること」という基本的な教育を大切に推進していただきたい。 ・不登校児童の増加を食い止めるには、学校や地域との連携も重要になる。 ・いじめの未然防止や100%解消に向けて、「報告・連絡・相談」を徹底していただきたい。	・人権に配慮し、自分も他人も大切できる児童の育成を次年度も継続して行う。 ・次年度も、校長との3つの約束（何でも一生懸命頑張ること、自分も周りの人も大切にすること、他の人の話を真剣に聞くこと）の徹底を図っていく。 ・不登校やいじめに関して、組織的な対応を徹底していく。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
いのち	保健衛生や安全に気を付け、体を鍛える児童の育成	○児童の健康や安全を守るための取組を推進する。 ○食に関心をもち、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける児童を育成する取組の充実を図る。 ○体力調査の結果を踏まえた弱点強化の取組を推進する。	・手洗いの習慣化、場に応じたマスク着用、換気の励行、共用部分の消毒、黙食等を継続して徹底する。 ・生活安全、交通安全、災害安全に関わる教育を組織的・計画的に実施する。 ・栄養士や食育リーダーを中心とした、計画的・継続的な食に関する指導の推進する。 ・敏捷性、持久力等を高める運動に継続的に取り組む機会を設け、運動の日常化を図る。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	4	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・運動不足や肥満の児童が多い印象を受けている。体力向上の取組を期待する。 ・からだを鍛えることを通じて、感染症対策にも結び付き、過度な対応をせずすむのではないか。 ・集団で生活している以上は感染予防は最重要項目である。 ・食事や運動について、正しい知識を習得させてほしい。	・豊かなスポーツライフの実現を目指して。学期に1回ずつ「体力向上月間」を設定する。体力向上月間中は、「縄跳び週間」や「持久走集会」等を行い、子供たちが運動に親しむことができるようにする。 ・栄養士や食育リーダーを中心とした、計画的・継続的な食に関する指導を推進する。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
かかわり	児童一人一人に徹底的に関わる指導の充実	○児童一人一人の状況に応じた適切な指導と必要な支援の充実を図る。 ○関係機関、専門家との連携による組織的な取組を推進する。	・児童の学習のつまずきをそのままにしないための、習熟度別指導の充実及びリソースルーム、学習支援員の活用を図る。 ・ステップ教室、せせらぎ教室、わかば学級等との連携による一人一人の児童の状況に応じたきめ細かい指導を実施する。 ・全学年に特別支援教育コーディネーターを配置し、校内の支援委員会で情報と対応の共有化を図る。 ・エール、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関係機関との連携による多面的な支援を実施する。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	2	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・リソースやステップ教室、わかば教室などについての認知度が低いように感じる。相談窓口など、保護者への周知を丁寧に図るとよいと思う。 ・個別指導を行う環境があることは、よいことである。継続していただきたい。 ・個人志向の世の中だが、人との関わりが大事であることを学校教育で感じさせて欲しい。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、ステップ教室、リソースルーム、学級支援員を積極的に活用し、一人一人に寄り添った教育活動を推進していく。 ・保護者への周知方法について課題が残った。今度、広報活動について検討し改善を図る必要がある。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		
かかわり	他者との人間関係を形成していくコミュニケーション能力を育成し、自己肯定感を高める教育の充実	○他者とのコミュニケーションを図る機会の充実を図る。 ○特別活動の充実により、児童の自己肯定感を高める取組を推進する。	・他者の意見を聞き、自分の考えを深めるとともに、自分の意見を積極的に発表する授業の充実を図る。 ・英語専科、ALTの指導による外国語、外国語活動の充実を図るとともに、低学年においても英語に触れる活動を取り入れ、コミュニケーションを楽しむ機会を積極的に設ける。 ・たてわり班活動、集会活動、委員会活動、クラブ活動等による異年齢交流活動の充実を図り、上級生が下級生の世話をすることで役に立つ喜びを感じ、自己肯定感を高められるようにする。	3	4	100%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。	3	4	児童アンケートの肯定的な回答の割合が90%以上	・異学年と関わる経験や意見交換できる場が多くあることは、素晴らしいことだと感じる。 ・多様な形態での集団経験は、子供たちにより影響を与える。 ・核家族はデフォルトとなっていることを考えると、子供同士学び合える取組は重要である。 ・ロング集会の再開を検討いただきたい。	・異学年による縦割り班遊び等の交流を行い、学級・学年間の連帯感や児童相互の豊かな人間関係を育む。 ・次年度は、全ての学校行事に「開校150周年記念」の冠を付け、前年踏襲にならない新たな企画をすることで特色ある行事を実施する。
					3	90%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		3	児童アンケートの肯定的な回答の割合が85%以上		
					2	80%の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		2	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%以上		
					1	80%未満の教員が具体的な方策を意識して取り組んだ。		1	児童アンケートの肯定的な回答の割合が80%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。